

もっと知りたい？

大日堂・ 憾満ヶ淵



流出する前の往時の大日堂

大日堂を見るなら

- バス：JR日光駅・東武日光線日光駅から東武バスで中禅寺温泉または湯元温泉行きで「総合会館前」下車徒歩約20分
- 車：日光宇都宮道路日光ICから国道120号経由で約10分。憾満ヶ淵に駐車場あり

憾満ヶ淵を見るなら

- バス：JR日光駅・東武日光線日光駅から東武バスで中禅寺温泉または湯元温泉行きで「総合会館前」下車徒歩約15分
- 車：日光宇都宮道路日光ICから国道119号経由で約10分。駐車場あり



憾満ヶ淵

◆大日堂周辺景観整備事業

明治35年（1902）、足尾台風により、栃木県全県に被害が及びました。大谷川の水源部では崩壊が多発し、人家100戸余りが流出。このとき流された大日堂は、平成18年（2006）に周辺景観整備事業によって往時の姿が復元されました。この事業は、その下流が鳴虫山の裾野と男体山からの荒沢溶岩により狭窄部（憾満ヶ淵）となっており、洪水時にあふれる危険性が高いことから実施されました。



明治35年の洪水で被災した大日堂



下流部狭窄部
（憾満ヶ淵）

大日堂跡

大日堂と憾満ヶ淵の位置関係



ヨシの保全

お地藏様

多段護岸

池

階段

ゆるやかな曲線の設置

地形に合わせた構造、多段式護岸が特徴

地形に合わせた構造